

反畑誠一（たんばた・せいいち）先生

音楽評論家 立命館大学客員教授

講師紹介は、開講式のページに記載

〈講義概要〉

本講座のコーディネーターである立命館大学の反畑誠一客員教授が、後期の総括を行った。

講義では、これまでのまとめとしてエンタテインメントやコンテンツ産業の概念からふり返り、デジタル化やインターネットがもたらしたコンテ

ンツ産業界の現状と課題について、これまでの講義内容も踏まえながら確認をした。また、この現状の中で、著作権の問題が非常に重要になる理由を示し、実施されたばかりの著作権法改正の焦点について、丁寧に説明をした。

同時に、デジタル技術、情報通信技術の進歩によって興った情報革命を、「産業革命よりも重要な変換」とし、その要点をまとめた。また、マーシャル・マクルーハンのメディア論をとりあげ、マクルーハンの著書はメディアに翻弄されずに主体性を確立するためのヒントになると紹介した。

さらに、来年度も講座が継続することを伝え、学生から要望などを受け付けた。

最後に、デジタル文化、ネット文化との関わりが、今後取り組むべき大きな課題であると提示し、1年間の講義を締めくくった。



《受講生の感想》

私は前期と後期を通してエンタテインメント産業論を受講しました。学部の先生がおもしろいとおっしゃっていたので受けてみようかなと思って受講しました。私はこの講座を1年間受けて本当によかったです。有名なプロフェッショナルな方々の貴重なお話・意見を毎週聞くことができました。こういう考え方もあるんだなとかとてもおもしろかったです。また、将来の進路についても参考になりました。いろいろなお話を聞いて、視野が広がったし、あんな先生みたいに輝きたい、と思いました。この講座は他の講座と比べものにならないくらい私にとって大きなものになりました。ありがとうございました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

今日の講義を聞いて、やはり音楽産業を考える上で著作権についての知識は必要なものだと感じました。2010年から著作権法の一部が改正されたことをきっかけに、違法ダウンロードについて少し勉強をしたのですが、もともとの知識がないために苦労しました。大学四年間でしっかりと理解できるようになりたいです。もう一度受けたいと思える講座でした。

立命館大学・産業社会学部・1回生

半期通して多くの第一線でご活躍されている先生方のお話をうかがうことができましたが、もっとこのような知識を持っていたら違った見方、聞き方ができたのかなぁと感じました。今期は就活などの都合で講義を満足に受講できなかったのが、来期以降開講されるのであればぜひ受講したいと考えています。よろしくをお願いします。

立命館大学・経営学部・3回生

この講義を通して、いろいろな視点からエンタテインメント産業についてみつめることができました。マーシャル・マクラーハンについて興味を持ったので、勉強してみようと思いました。昨年の音楽文化産業論にひきつづき、受講してよかったです。将来、映像に関わる仕事につきたいと考えているので、今回学んだことを生かしたいと思います！貴重なお話をきくことができ本当によかったです。

立命館大学・映像学部・2回生

通年で講義を受けてみて、この授業は自分の意識を変える、非常に大きなきっかけとなりました。経済の視点を持ち、エンターテインメントを捉えることによって、より深く、コンテンツの現状を理解し、考えていけると思います。 京都産業大学・経営部・3回生

エンタテインメント産業論をこの後期にやってきて、一番よかったことと言えば、授業と思って受けるというよりは聞きたいから受けるというような、自分から受けたいような本当にすばらしいゲスト講師さんばかりで、毎週が本当に楽しみでした。また、いろいろなジャンルの方々の話をきくことによって、一つの考えにかたよらず、色々な意見をとりいれることができ、自分にとって本当に刺激的でした。自分がやりたいと思えることも少し増えたように感じます。

立命館大学・映像学部・1回生

前期後期を通してエンタテインメント産業論を受講して本当によかったです。前期だけでは不十分だった知識について後期は本当にくわしく学べました。著作権に関して色々な分野の視点から学べて、これからレポートを書く際にも使えるようなことがたくさん聞けて、本当に価値のある科目だと感じました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

今日の講義は、今回のレポートのテーマでもあり、福井先生の講義テーマにもなっていた著作権に関してふれられており、おもしろかった。また、マクラーハンのメディア論については、先日別の講義でもちょうど聞いた部分だったので分かりやすかった。

立命館大学・産業社会学部・1回生

今日の反畑先生の授業でおっしゃられた「インターネットの普及は産業革命より深く、重要な転換」というのは、本当にその通りだなと感じました。最近のネットやデジタル化の波は、怖いほど進んでいます。その中で私達は、モラルを持ちデジタルにのみ込まれることなく、よりよいものを作りつづけていきたいと思っています。

京都女子大学・短期大学部・2回生